

中国語母語話者は「ようになる」と 何を類義表現と捉えるか

— 対照研究と誤用観察から分かること —

植松 容子

1. はじめに

「ようになる」は多くの日本語教科書において初級で扱われる文法項目にもかかわらず、レベルが上がっても不自然な使用や不使用が見られる。特に中国語母語話者においては、日本語母語話者と比べて「ようになる」の使用が少ないことが観察される。本研究の目的は、中国語母語話者は「ようになる」のかわりに何を使用しているのか、中国語母語話者にとって「ようになる」に似ているように見える表現は何かを明らかにし、「ようになる」の運用に結びつく記述の観点を探ることである。

2. 研究の背景

2.1 「ようになる」の日本語学における知見

「ようになる」についての日本語学における知見を整理するには、「ようになる」を含む動詞変化構文（「ことにする」「ことになる」「ようにする」「ようになる」）全体の中でどのように記述されているかを見ておく必要がある。

動詞変化構文の研究のうち、「ようになる」に注目した研究は多くない。管見の限りでは、ナル表現全体を扱う中の1つとして「ことになる」「ようになる」を扱ったもの（安達 1997）、「ようになる」と「てくる」を類義表現と捉えて記述したもの（王 2012）のみである¹。

安達（1997: 81）では「ようになる」は「進展性を持たない事態に進展性を付与する構文」であり、「移行していく事態（状況）は、一般的に、主体の意思によってコントロールされない事態」であると説明される。さらに、例外的に非進展的な「ようになる」の存在を指摘し、この場合は「ことになる」に言い換え可能であると述べている²。また、王（2012）では、「ようになる」は「主に一方の状態からそれと異なるもう一方の状態へと時間をかけて変化していくこと」を表すのに対し、「てくる」は「連続的な状態変化」を表すと結論付けている。

2.2 日本語教育における「ようになる」の扱い

「ようになる」は日本語教育においてどの段階でどのような例文が出され、どのように説明されるのだろうか。日本語教育における「ようになる」の扱いを整理している植松（2012）をもとに、加筆したデータを表1に示す。表1から、「ようになる」は初級の後半で提出されていることが分かる。

1 単独で扱われているのは「ことになる」（柏崎 2000）、「ことにする」（柏崎 2001）、「ようにする」（前田 2003, 2006）、「ようにする」の使役性に注目して記述したもの（金 2003, 森山 2014）などがあげられる。

2 例えば「韓国では大学の第二外国語として日本語が認められるようになったこともあって、日本語を学ぼうとする若者が急増しているという。」のようなものを指す。（安達 1997: 82）

表1 「ようになる」の提出課と提出位置³

	初級	大地	進学	新文化	文化改	みんな改	SFJ3	JBII	げんき	できる
ようになる	16	24	14	24	23	36	21	17 (38) ⁴		
全課	28	42	22	36	34	50	24	42	23	15
提出位置	0.57	0.57	0.64	0.67	0.68	0.72	0.88	0.9		

また、教科書で提出される「ようになる」の形式的な側面に注目すると、「ようになる」に前接する動詞の形は80%が可能形であり、文末形式は74%が「ようになりました(ね)」という過去の言い切りの形で使われている(植松 2012: 30-32)。

では、日本語教科書および教師用指導書の文法解説、日本語教師および日本語学習者向けの文法解説書において、「ようになる」はどのように説明されているのだろうか。これらにおける「ようになる」の説明を見てみると、「時間をかけて習慣・能力が身に付くという意味合いを持つ」(市川 2005)のように説明されることが多いことが分かる。辞書形接続と可能形接続を両方扱っている教科書(『進学する人のための日本語初級 教師用指導書』pp. 108-109)においても、「以前はしなかった行為を、今はするという変化を表す場合は動詞の「辞書の形」に「ようになりました」を続けて言う。また、以前はできなかった行為が、今はできるという変化は、「可能の動詞」に「ようになりました」を続けて言う。」のように、前接する動詞の形による意味の違いを説明するのみである。類義表現については、それ自体に変化の意味を含む動詞(例「疲れる」)の場合や⁵、「ようになる」と「てくる」の違いについて説明されることがある⁶。

2.3 学習者の母語を考慮した日本語教育文法研究

白川(2002)では語学的研究を行うための方法の一つとして、学習者の誤用や非用、母語からの発想により、学習上の「勘どころ」を押さえた文法知識を提供することの重要性を指摘している。「勘どころ」というのは、「なるほど、この形式はこういうときに使うのか」と合点できるような、使用に結びつく生きた文法知識を提供すること(非用を生まない記述)、「放っておけば生じかねない「勘違い」を予測して「言えそうだが言えない」表現を未然に回避すること(誤用を生まない記述)」(白川 2002: 73)である。

また、井上(2005)は、学習者の母語を考慮して日本語教育文法を考えることの重要性を具体的に論じている。「学習者にとっては、自らの母語が十分に考慮された、少ない労力で大きな成果が得られる文法こそが必要(p. 83)」であり、日本語と他言語との対照研究は古くから蓄積があるが、「母語別の日本語教育文法は、「言語の対照研究の成果を日本語教育に生かす」という観点からではなく、「学習目的の実現のために学習者の母語をどう考慮するか」という観点から考えられるべきである

3 縦軸に「ようになる」提出課と、「全課」の数(当該教科書が全何課から構成されているか)、「提出位置」(「ようになる」提出課を全課の数で割ったもの。例えば0.5なら初級半ばを意味する)を示している。横軸には調査対象とした教科書の略称を記している。教科書の正式名称については参考資料を参照されたい。

4 J-BIIの17課であるが、J-BIからの続きと考えると38課に相当することを示している。

5 短時間で変化をしたことには使いにくい(例「×今日は忙しくて疲れるようになった」(進学: 108-109))。

6 「「わかるようになる」と「わかってくる」の違いについては、「わかるようになる」が時間をかけて「わからなかったものがわかる」という状態に達するのに対し、「わかってくる」はある時点で「わかる」という変化が起こることを表します。」(初級: 241-242)

(p. 84)」と主張している。

このように、母語に配慮した文法記述の必要性が高まる中、2005年に「中国語話者のための日本語教育研究会」が発足し、学習者数の圧倒的に多い中国語母語話者を対象とした日本語教育文法の研究が進んでいった。中でも張(2014, 2015)が提案する特定の母語話者を対象とした日本語教育文法の研究方法に注目したい。張(2014: 39)では中国語を母語とする学習者が、第二言語学習の際に表記と意味の2つの側面から影響を受けていることを捉えるための研究モデルとして、「対照研究、誤用観察、検証調査という三位一体の研究モデル」を提案している。対照研究で特定の文法項目の言語間の対応関係を明らかにし、その上で非対応の部分の学習者の誤用観察をし、そこから得られた仮説を検証調査で確認するというものである。このモデルは「仮説検証型習得研究」であるとも言えるが、この3つの中でも重要なのが対照研究と誤用観察であり、「この部分が示されれば、すでに大方「対照研究・誤用観察・検証調査」という三位一体のモデルを示せたことになると言ってもよいであろう」(張 2014: 44)と述べられている。

2.4 本研究の問題意識

「ようになる」は日本語学においては、それだけを取り上げて詳細に論じられることがない。また、日本語教育においても前接する動詞の形(可能形か、辞書形か)による意味の違いを説明するにとどまっている。これらのことから、現在の日本語教育において(あるいは日本語母語話者にとって)、「ようになる」はそれほど難しい文法項目と捉えられていないことが分かる。しかし、実際に中国語母語話者の使用実態を観察すると、「ようになる」をあまり使用していない。つまり、従来の「ようになる」の記述では中国語母語話者の「勘どころ」(白川 2002)が押さえられていないため、運用に結びつきにくいと考えられる。では、中国語母語話者の学習上の「勘どころ」を押さえた記述を行うには、どのような点に留意すれば良いのだろうか。本研究では張(2014)の示す三位一体型の研究モデルのうち「対照研究」と「誤用観察」を通して、中国語母語話者の「ようになる」運用につながる記述の観点を探る。

3. 研究方法

中国語母語話者が「ようになる」と何を類義表現と捉えるかについて探るために、張(2014)の「対照研究」と「誤用観察」を行った。

「対照研究」は2段階に分けて行った。詳細は次節に譲るが、中国語は日本語の「ようになる」に相当する専用の形式を持たない。したがって、まずは日本語の「ようになる」が中国語でどのように表されるのかを探る必要がある。そこで、対訳版が発行されている日本語教科書および文法解説書と中国で発行された日本語教科書計5冊を対象に、「ようになる」が使われた日本語の例文が中国語でどのように翻訳されているかについて調査した。また、それらの教科書における「ようになる」の文法説明(中国語で書かれたもの)についても分析を行った。さらに、教科書分析で得られた「ようになる」に相当する中国語文の中から8例を選定し、中国語を母語とする日本語学習者は、その中国語文をどのような日本語に翻訳するか、翻訳課題調査を行った。

「誤用観察」には「YNU 書き言葉コーパス」を使用して、3段階に分けて行った⁷。まず、日本語母語話者30名の全データを対象に、最も「ようになる」が使われる文脈を洗い出した。次に、その文脈を中国語母語話者30名はどのように表しているかについて調査した。さらに、その結果が中国

語母語話者の特徴と言えるのかを確認するために、同文脈における韓国語母語話者 30 名の表し方についても調査した。

4. 対照研究—教科書における中国語の例文および文法解説と翻訳課題調査から—

4.1 日本語教科書の対訳版・中国で発行されている教科書の調査

動詞変化構文は日本語や韓国語にはあるが、言語によってはそれに相当する専用の形式を持たない場合もあり、中国語もその 1 つである。また、ターゲットとする文法項目が日本語学において詳細な分析がなされていれば、それを中国語に対訳していくという方法を採用することもできる。しかし、「ようになる」のみを詳細に扱った論考は管見の限りでは見当たらないため、その方法を採用することも難しい。そこで本稿ではまず、中国語対訳版を持つ日本語の教科書と中国で発行されている日本語の教科書計 8 冊を対象に、「ようになる」は中国語でどのように表されるのかを調査した。教科書名とその略称は、巻末資料に記す。調査の結果を表 2 に示す。

表 2 中国語における「ようになる」に相当する文の表し方

	形式	例数	中国語の例文: 日本語文
「了」 を使用	可能を表す形式+了 (会/能/可以…了)	14	终于会骑自行车了: やっと自転車に乗れるようになりました (みⅡ中 p. 72)
	了のみ	2	婴儿已长大, 活动已相当自如了.: 赤ちゃんはずいぶん活発に動くようになりました (句型 p. 805)
「就」 を使用	就+可能を表す形式 (就…会, 能)	4	婴儿过了一岁就会说话.: 赤ちゃんは 1 歳を過ぎると, 言葉を話すようになります (中日下 p. 154)
その他	可能を表す形式のみ	1	因为有电子邮件, 可以简单地和朋友联系: Eメールのおかげで, 友達と簡単に連絡が取れるようになりました (新界 2 p. 40)
	その他	2	新学期开始以后, 我每天 6 点起床: 新学期が始まってから, 毎日 6 時に起きるようになりました。(新界 2 p. 40)

教科書調査の結果, 23 例が得られた。23 例は, 使用されている形式の特徴から, 大きく 3 パターンに分けることができる。最も多かったのは文末に「了」が使われているタイプ(「可能を表す形式(会/能/可以)+了」, 「了」のみのもの)で 16 例と, 全体の 70% を占める⁸。

また, 調査対象とした 8 冊における「ようになる」の文法説明を観察すると, ほとんどのものが「状態変化」「能力や習慣の変化」と説明されている(= (1))。この結果は, 2.2 で見た日本でよく使われている日本語教科書の分析結果とほぼ一致する。

7 YNU 書き言葉コーパスとは, 日本人大学生 30 名と留学生 60 名(韓国語母語話者, 中国語母語話者各 30 名)に対し, 12 種類のタスクを課すことによって得た計 1080 編の作文を, コーパスの形にまとめたものである。学習者のレベルや学習歴の詳細は金澤編(2014: 13)を参照されたい。

8 中国語の「了」には 2 種類あり, 「了 1」は動詞の後ろに用い, 主として動作の完了を, 「了 2」は文末に置き, 主として事態に変化が起きたことを表すとされる(呂主編 1992: 239)。また, 可能を表す形式が多く使われているのは, そもそも日本語教育における「ようになる」は可能形接続が扱われやすいことによる影響と考えられる。

- (1) 此句型前接动词辞书形和可能形，表示能力与习惯的变化，意为“变得～了”。(新界2 p.28)
(能力と習慣の変化を表す)

4.2 翻訳課題調査

では、中国語を母語とする日本語学習者は、これらの中国語文をどのような日本語文に翻訳するのであろうか。23例の中から似た例を除いて以下の8例を選定し、大学および大学院に在籍する中国語母語話者12名(N1取得済6名、N2取得済6名)を対象に翻訳課題調査を行った。

- (2) けがが治って歩けるようになりました／伤已经痊愈，能够走路了(中日下)
 (3) 着物を自分で着られるようになりました／已经能够自己穿和服了(中日下)
 (4) 日本語の新聞が少し読めるようになりました／能看懂一些日文报纸了(JBⅡ)
 (5) 眼鏡をかければ、黒板の字が見えるようになります／戴上眼镜，就能看清黑板上的字(句型)
 (6) うちの息子は歩けるようになりました／我儿子会走路了(大地2中)
 (7) やっと自転車に乗れるようになりました／终于会骑自行车了(みⅡ中)
 (8) 日本人は100年ぐらいまえから、牛肉や豚肉を食べるようになりました／日本人大约是从100年以前开始吃牛肉和猪肉的(みⅡ中)
 (9) 始めは食べられませんでした、今は何でも食べられるようになりました／刚开始不习惯，不过现在什么都能吃了(みⅡ中)

表3に調査結果を示す。結果は、「ようになる」に翻訳した人数が多い順に示している。

表3 日本語への翻訳課題の結果⁹

No.	中国語文	ユニナル	タ	ル
(4)	能看懂一些日文报纸了	7	1	4
(6)	我儿子会走路了	6	3	3
(7)	终于会骑自行车了	5	4	3
(2)	伤已经痊愈，能够走路了	4	5	3
(3)	已经能够自己穿和服了	4	3	5
(9)	刚开始不习惯，不过现在什么都能吃了	4	1	7
(8)	日本人大约是从100年以前开始吃牛肉和猪肉的	3	6	3
(5)	戴上眼镜，就能看清黑板上的字	1	0	11

翻訳課題調査の結果、12名全員が「ようになる」を使って翻訳したものではなく、最も「ようになる」が使われたのが(4)の「能看懂一些日文报纸了(日本語の新聞が少し読めるようになりました)」で7名であった。また、「ようになる」が1例しか使われなかった(5)について3名にインタビューを行ったところ、「眼鏡をかけたら黒板の字が見えた」でもいいのではないかと、なぜわざわざ「黒板の字が見えるようになった」と言わなければならないのか、というコメントが得られた。

9 表の縦軸には調査対象とした例文番号と該当例文を示した(日本語訳は表上部の(2)-(9)を参照されたい)。表の横軸には、該当中国語をどのような日本語に翻訳したかを示している。たとえば(4)を例にとると、(日本語の新聞が)「読めるようになった」と翻訳した人が7名、「読めた」と翻訳した人が1名、「読める」と翻訳した人が4名いたことを示す。

以上のことから、「ようになる」に相当するであろう中国語文を日本語文に翻訳させた場合、必ずしも「ようになる」が使われるわけではなく、「～た」や「～る」が用いられることもあることが分かった。

5. 誤用観察—YNU 書き言葉コーパスを用いて—

5.1 「ようになる」使用状況の概観

次に、YNU 書き言葉コーパスにおける「ようになる」の使用状況を概観する。表4の縦軸に日本語母語話者（J）と中国語母語話者（C）と韓国語母語話者（K）を示し、横軸にタスク番号（例：T1はタスク1）を示す¹⁰。

表4 YNU コーパスにおける「ようになる」の使用状況

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	T10	T11	T12	計
J			1		1	1				5		33	41
C				1	2	1			2	4	2	13	25
K	1	1	3	4	2	1	1		2	8	3	17	43

表4の「ようになる」の使用総数を見ると、日本語母語話者は41例、韓国語母語話者は43例であるのに対し、中国語母語話者は25例と半数程度である。また、「ようになる」が多く見られたタスクは、どの母語話者もタスク12（小学生新聞に掲載するための七夕伝説を分かりやすく書くタスク）である。しかし、タスク12においても中国語母語話者は13例と、日本語母語話者33例の半数以下である。これらのことから、中国語母語話者は「ようになる」をあまり使用しないことがうかがえる。では、日本語母語話者が「ようになる」を使用している文脈を、中国語母語話者はどのように表しているのだろうか。

そこで、まず日本語母語話者が最も「ようになる」を使用しているタスク12を対象に、どのような文脈で「ようになる」を使用しているのかを探った。その結果、最も多かったのは<（頑張れば合わせてもらえると思った二人は喜んで）再び仕事をするようになった>という文脈で18例、次に<（二人で過ごす時間が楽しくて）二人は仕事をサボるようになった>という文脈で10例使用していた。このうち、タスク12における使用例の半数以上が「ようになる」を使用していた<再び仕事をするようになった>文脈に絞り、同文脈を中国語母語話者および韓国語母語話者がどのように表しているかについて見ていく¹¹。

10 本コーパスにおける12種類のタスクは、「書く」という言語活動をいくつかの観点（例：読み手の親疎等）から分類して体系的に把握したうえで決定されたものである。各タスクの詳細は金澤編（2014：6-10）を参照されたい。

11 この方法は厳密には誤用観察とは言い難い。また、「ようになる」は「当該文脈でそれを必ず使わなければならない」と言うことが難しい文法項目であるため、「非用」や「回避」と言うことも難しい。本研究では「日本語母語話者が当該文法項目を使用する傾向にある文脈を、日本語学習者はどのように表しているのか」について観察したため、強いていえば「代用（代わりに何をを使って表しているか）」の観察と言えるだろう。

5.2 「再び仕事をするようになった」文脈の表し方

日本語母語話者が最も「ようになる」を使用しているタスク 12 の「再び仕事をするようになった」文脈を、中国語母語話者と韓国語母語話者はそれぞれどのように表しているのだろうか。各母語話者 30 名ずつ（計 90 名）のタスク 12 における「再び仕事をするようになった」文脈の表し方を観察した結果を表 5 に示す。

表 5 タスク 12「再び仕事をするようになった」文脈の表し方¹²

形式（例）	J	C	K
ようになる（仕事をするようになった）	18	1	1
している（働いている／働いていた）	0	8	0
た（働きました／仕事をしました）	6	5	8
る（働きます）	4	0	0
～始めた（働き始めた）	0	2	0
その他	2	0	1
当該文脈の記述なし	2	14	20
合計	32	30	30

表 5 から、「再び仕事をするようになった」という文脈で「ようになる」を使用しているのは、中国語母語話者も韓国語母語話者も 1 名ずつであることが分かる。では、中国語母語話者に特徴的なのはどのような点であろうか。まず、中国語母語話者にのみ 8 例見られた「～ている」の使用に注目してみる。

(10) そして、「織女」と「牛郎」は元気になって、一生懸命に働いています。(T12, C036)¹³

(11) 前のように自分たちの仕事を一生懸命やっていました。(T12, C049)

このように、中国語母語話者には「働いている」「一生懸命やっている」のように、「～ている」の使用が観察される。一方、日本語母語話者や韓国語母語話者には「～ている」の使用は見られない。

次に、「～た」という表現に注目してみたい。中国語母語話者は「働きました」のように「～た」を 5 例使用しているが、中国語母語話者のみならず、韓国語母語話者も 8 例、日本語母語話者も 6 例「～た」を使用している。以下 (12), (13) が中国語母語話者の例、(14), (15) が韓国語母語話者の例、(16), (17) が日本語母語話者の例である。

(12) 二人は、この会える日のために、まだ毎日、一生懸命に仕事をやったのです。(T12, C013)

(13) 二人は相手が会えるため、一生懸命を働きました。(T12, C026)

12 表の縦軸は指定された文脈において使用している形式、横軸はその形式におけるそれぞれの母語話者（J: 日本語母語話者, C: 中国語母語話者, K: 韓国語母語話者）の使用数を示す。なお、J の総数が 32 となっているのは、2 名がそれぞれ 2 例ずつ「ようになる」を使用しているためである。

13 (10)～(17) は YNU 書き言葉コーパスのデータである（下線は筆者による）。例文末の（ ）に示したのはタスク番号とデータ番号である。例えば (10) の (T12, C036) は中国語母語話者の 036 がタスク 12 において産出したデータということになる。

- (14) 二人は会うその日を待ちながら一生懸命に働きました。(T12, K038)
 (15) 二人は大変喜びながら、会う日を待ちながら仕事に集中しました。(T12, K036)
 (16) おり姫とひこ星は、とても喜び、それから毎日一生懸命仕事をしました。(T12, J017)
 (17) その日から2人はまた一生けんめいしごとをしました。(T12, J027)

このように、「ようになる」のかわりに「～た」を使用することは、中国語母語話者にのみ見られる特徴とは言い難い。ただし、ここで考慮しておかなければならないのは、タスク実施の際に使用した母語文の影響である。タスク12は七夕伝説がどのようなストーリーだったかを思い出させるために、タスク実施前に母語で書かれた七夕物語を見せ、それを回収してからタスクを書かせている。母語文を観察すると、(18)に示した韓国語文においては「た」に相当する形式が用いられているため、母語の影響は否定できない。一方、(19)の中国語文においては、「了」が用いられていないため、母語の影響については言及できない。

- (18) 건우와 직녀는 칠석날을 기다리며 일 년 동안 열심히 일했지만,
 訳: ギョウウとジクニョは七夕を待ちながら一年間一生懸命に働いたが,
 (19) 因此二人对7月7日的相见充满期待, 织女每天勤于织布, 牛郎也认真照顾牛群。
 訳: 2人は7月7日に会えることを期待して、織姫は毎日布を織り、彦星は真面目に牛の世話をする。

6. 結果と考察

「対照研究」, 「誤用観察」から明らかになったことを整理すると以下の通りである。

○対照研究から明らかになったこと

- 日本語の「ようになった」は中国語では「～了」で表されることが多い。
- 日本語の「ようになった」に相当する中国語文を日本語に翻訳させると、「ようになる」よりも「～た」や「～る」が使用されることがある。

○誤用観察から明らかになったこと

- 日本語母語話者が「ようになる」を使用する傾向がある文脈を、中国語母語話者は「～ている」を使って表すことがある。これは、中国語母語話者に特徴的な点であると言える。
- 同様に「～た」を使って表すこともあるが、「タ」は韓国語母語話者も日本語母語話者も使用しているため、中国語母語話者にのみ見られる特徴とは言い難い。一方で、「～た」と「ようになる」が類義表現であることも示唆している。

以上のことから、中国語母語話者にとって、「ようになる(なった)」の類義表現は「～ている」なのではないかということが指摘できる。4.2における翻訳課題調査(表3)の結果では「～ている」と翻訳されたものはなかったが、それは単文のレベルでは問題(「ようになる」と「～ている」が類義表現となること)が顕在化しにくいと考えられる。実際の運用における誤用(代用)を観察することにより、初めて見えてきた傾向と言えるだろう。これは従来、「ようになる」の類義表現として「ことになる」や「ようにする」、あるいは「～てくる」があげられていたが、本研究を通して、中国語母語話者は「ようになる」と「～ている」を類義表現として捉える可能性を指摘することができた。学習者の母語に配慮してその使用実態を観察することにより、日本語学的な視点から見ていたのでは気付かない類義表現(ここでは「ようになる」と「～ている」)を新たに浮かび上がらせることができた

と言えよう。

では、なぜ中国語母語話者は「よくなる」と「～ている」を類義表現として捉えることがあるのだろうか。この点について明らかにするためには、「了」を含む中国語の変化表現についても詳細な分析を行う必要があるため、今後の課題とする。

7. おわりに

本研究では中国語母語話者の「よくなる」の使用が少ないという実態に基づき、張(2014)の三位一体の研究モデルのうち対照研究と誤用観察を行った結果、中国語母語話者は「よくなる」を「～ている」と類義表現と捉えている可能性が示唆された。

ただし、今回調査対象としたのはある特定の1つの文脈だけであるのに加えて、「(再び)働くようになった」のような「辞書形+よくなる」に限った結果であることに留意しなければならない。しかし、植松(2014: 343)の韓国語母語話者を対象とした調査結果においても、「(よくなる)の可能形接続は誤用が少ないのに対し、辞書形接続は半数が誤用である」と述べられていることから、中国語母語話者においても「可能形+よくなる」よりも「辞書形+よくなる」のほうが適切な使用文脈を理解しにくい(なぜわざわざ「辞書形+よくなる」を使って表さなければならないのか、理解しにくい)ことが予想される。今後は、今回の調査で得られた結果をもとに「辞書形+よくなる」に焦点を当ててさらなる調査を行い、中国語母語話者の学習上の「勘どころ」を捉えた記述として還元することを目指したい。

参考資料

<第2節: 調査対象とした日本語教科書(表1に示した順に記載)>

初級: 東京外国語大学留学生日本語教育センター(2010)『初級日本語 新装改訂版 上・下』, 凡人社, 大地: 山崎佳子他(2009)『日本語初級1, 2 大地』, スリーエーネットワーク, 進学: 日本学生支援機構東京日本語センター(2009)『進学する人のための日本語初級 本冊』, 『進学する人のための日本語初級 教師用指導書』, 独立行政法人日本学生支援機構, 新文化: 文化外国語専門学校編(2008)『新文化初級日本語I, II』, 凡人社, 文化改: 文化外国語専門学校編(2013)『文化初級日本語改訂版I, II』, 凡人社, みんな改: スリーエーネットワーク編著(2013)『みんなの日本語 初級II 第2版 本冊』, スリーエーネットワーク, SFJ3: 筑波ランゲージグループ(1995)『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE Vol. 3, Notes』, 凡人社, JBII: 小山悟(2008)『J-BRIDGE FOR BEGINNERS Vol. 2』, 凡人社, げんき: 坂野永理, 池田庸子, 大野裕, 品川恭子, 渡嘉敷恭子著(2011)『初級日本語 げんきI, II 第2版』, The Japan Times, できる: 嶋田和子監修, できる日本語教材開発プロジェクト著(2011)『できる日本語 初級 本冊』, アルク

<第4節: 調査対象とした日本語教科書>

みII中: スリーエーネットワーク編著(1998)『みんなの日本語初級II 第二版 翻訳・文法解説 中国語版』, スリーエーネットワーク, 大地2中: 山崎佳子他(2010)『日本語初級2 大地 文型説明と翻訳<中国語版>』, スリーエーネットワーク, JBII: 小山悟(2008)『J-BRIDGE FOR BEGINNERS Vol. 2』, 凡人社, 句型: グループジャマシィ編者, 徐一平翻訳(代表)(2001)『中文版日本語句型辞典』, くろしお出版, 中日下: 光村図書出版・中国人民教育出版社編(2005)『新版 中日交流標準日本語初級下』, 中国人民教育出版社, 新界2: 徐敏民・丸山千歌主編(2014)『新界标日本語総合教程2』, 復旦大学出版社, 総合二: 彭广陆・守屋三千代主編(2005)『综合日语(第二册)』, 北京大学出版会, 新編二: 周平・陈小芬(2010)『新編日语第二册(修订本)』, 上海外语教育出版社

引用文献

安達太郎(1997)「「なる」による変化構文の意味と用法」『広島女子大学国際文化学部紀要』第4号, pp. 71-84

- 市川保子 (2005) 『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- 井上優 (2005) 「学習者の母語を考慮した日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版, pp. 83-102
- 植松容子 (2012) 「日本語教育における「よくなる」の扱い—韓国語母語話者を対象とした文法記述のために—」『学苑』864号, pp. 30-37
- 植松容子 (2014) 「韓国語母語話者における動詞変化構文の使用状況—母語の感覚に合う記述のために—」金澤裕之編『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房, pp. 329-351
- 植松容子 (2015) 「中国語母語話者における動詞変化構文の使用状況—母語の感覚に配慮した文法記述のために—」『平成27年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp. 183-188
- 植松容子 (2016) 「中国語母語話者は「よくなる」と何を類義表現として捉えるか—中国語母語話者を対象とした「よくなる」の記述に向けて—」, 第35回中国語話者のための日本語教育研究会 (於名古屋大学) 発表資料
- 王崗 (2012) 「「～よくなる」と「～てくる」についての分析」『日本語日本文学』22号, pp. 43-50
- 柏崎雅世 (2000) 「「ことになる」「ことにする」の意味と用法 その一「ことになる」」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』26号, pp. 49-67
- 柏崎雅世 (2001) 「「ことになる」「ことにする」の意味と用法 その二「ことにする」」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』27号, pp. 33-47
- 金澤裕之編 (2014) 『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房
- 金熹成 (2003) 「使役を表す「ようにする」「ようにさせる」」『日本語と日本文学』36号, pp. 41-53
- 白川博之 (2002) 「記述的研究と日本語教育—「語学的研究」の必要性と可能性」『日本語文法』2巻2号, pp. 62-80
- 張麟声 (2014) 『新版 中国語話者のための日本語教育研究入門』日中言語文化出版社
- 張麟声 (2015) 「中国語話者用日本語教育文法の体系的構築—中国語話者のための日本語教育研究会の今後の目標として—」『中国語話者のための日本語教育研究』第6号, pp. 1-17
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 「第5章 さまざまな構文 第5節 変化構文」『現代日本語文法2』くろしお出版, pp. 164-172
- 前田直子 (2003) 「現代日本語における動詞変化構文「スルようにする」の意味・用法—変化と様態の関係をめぐって—」『研究年報』49号, pp. 61-76
- 前田直子 (2006) 『「ように」の意味・用法』笠間書院
- 松岡弘監修 庵功雄, 高梨信乃, 中西久実子, 山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 森山卓郎 (2014) 「「ようにする」命令形の文と「ように」型指示文」『日本語学』Vol. 33-4, pp. 45-54
- 呂叔湘主編 (1992) 『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』東方書店

〔付記〕

- ・本研究は科学研究費補助金「学習者データに基づく文法記述の試み—韓国語母語話者を対象に」(若手研究(B), 課題番号25770192, 研究代表者: 植松容子)の成果の一部である。
- ・本稿は第35回中国語話者のための日本語教育研究会(2016年3月5日, 名古屋大学)において発表した内容を改稿したものである。
- ・本研究を成すにあたり, 昭和女子大学大学院生の姚莎莎氏に中国語をチェックしていただいた。記して感謝申し上げます。

(うえまつ ようこ 日本語日本文学科)